

第1回 医療被ばく国民線量評価委員会（臨時委員会）

開催日時：2022年6月24日（金）18：30～19：30

場 所：オンライン

出席者：赤羽、恵谷、小野、川浦、張、長谷川、藤淵、松原、横山

オブザーバー：西岡（奈良県立医大）

- ・委員長より、本臨時委員会の設立経緯、今後の計画について説明があった。
- ・当面2年間活動。
- ・これまでにこの前委員会として、自然放射線について国民線量について検討。論文としてとりまとめ。
- ・本委員会では、まず、評価方法を確立することを目的としている。
- ・若手育成も視野に入れて活動。
- ・現段階では、National Data Base を利用して線量を評価できないかと考えている。
- ・オブザーバーとして奈良県立医大西岡氏が参加。National Data Base の専門家として次回取扱う上での注意点についてご指南いただく。
- ・本学会として活動資金がないので、科研費のエントリーを検討。
- ・赤羽委員より、原子力安全研究協会で行きとめられた生活環境放射線（国民線量の算定）について、特に医療被ばく関連箇所の記載について、参照したデータ、推定方法等についての詳細な説明があった。
- ・医療被ばくについてデータ源は UNSCEAR、National Data Base (NDB) オープンデータ、厚労省の医療施設調査・病院報告、全国核医学診療実態調査報告書などから、医療できるものを抜粋して利用。（第3版では、NDB データについては第1回と第4回 NDB データを利用。現在、NDB データは現在第6回まで公表。）
- ・OECD Health Statistics のデータは？
- ・平均乳腺線量：2mGy 程度とされている。→これはどこから？
- ・第2版では3.87mSv/年であったが、第3版では2.6mSv/年となった。CTによる被ばくが以前の評価では高い。不確かさが大きいので、第2版と第3版に有意な差があるのかどうかはわからない。

- ・赤羽委員より、最近発刊された 2020/2021UNSCEAR レポートについても報告があった。本レポートでは医療被ばくについて報告がされている。調査は 2014 年から開始。2005 年から 2018 年までカバー。不確かさも記載あり。
- ・今回の UNSCEAR レポートに対する日本対応は放医研 (QST) で実施。各学会の専門家にも協力。
- ・どの不確かさが大きいのか。
- ・道筋・課題を明確にしてほしい。
- ・UNSCEAR に日本の医療被ばくの線量を出していけるようにしたい。
- ・次回は 7 月の中旬に開催。

書記：横山